

子どもが伝える 王様目線の景観 ～六科丘古墳～

ふるさと
の 153
誇り



博レポート



上ノ東古墳

造出から古墳の中央を見通すと富士山の方角を向いています。富士山がよく見える台地の先端に立地している。

六科丘古墳



調査時の写真。古墳の裾部分を縁取るように幅2mに渡って石が敷き詰められていた。



造出付きの円墳。遊歩道のように2列の石で古墳の形を囲んでいる(白線は外側の石列)。



昭和58年の調査時の写真。ほんの少しだけ高まりが確認できる程度で、地元でも古墳と認識されていなかった。



昭和57年の調査直前の写真。盆地にせり出している台地のうち左側が六科丘。右側は上野の台地。



茨城からの視察でも王様目線の景観を堪能され、皆さん揃って富士山の写真を撮っていかれました。

「博アーカイブ」の六科丘古墳周辺を示す画面へのリンクです。



平成19年度に、当時の楯形西小学校の6年生と作成した説明板。児童の想いが込められている。



「博アーカイブ」では児童による動画も配信しています。



王様目線の景観を楽しむ。
市之瀬台地の上は甲府盆地や富士山を一望できる眺望ポイントばかり。中でも、最も眺めの良い台地の先端には、王様のお墓である「古墳」が並んでいることをご存知ですか？六科丘古墳や上ノ東古墳、物見塚古墳などです。
今回はその中でも、シダレ桜と児童手描きの説明板が出迎えてくれる「六科丘古墳」をご紹介します。
その古墳は、あやめが丘の住宅街の一番奥、見晴らしの良い場所にあり、現在は古墳公園となっています。
あやめが丘は元々「六科丘」とか「六科山」と呼ばれ、畑や桑畑が広がる丘でしたが、昭和五十年代に丘全体を住宅街にする開発計画によって誕生しました。
この六科丘全体も「六科丘遺跡」と呼ばれる弥生時代の遺跡で、開発工事に先立って昭和五七年度に発掘調査が行われています。その一角にそれまで知られていなかった古墳も発見されたのです。当初はこの地点も宅地になる予定でしたが、調査の上、古墳だけは残そうということで、町の史跡に指定され(現在の市指定)、公園として整備されたのです。
昭和五八年の発掘調査により、今から千五百年以上昔、五世紀後半の古墳であることがわかりました。地表の下約1mの深さに古墳を縁取るように拳大の石が敷き詰められており、その縁どりに祭礼を行ったと考えられている「造出」という出っ張り部分を持った「円墳」という形の古墳であることが判明しました。この

造出から古墳の中心を見通すとちょうど富士山の方角を向いており、古墳を造成する際に富士山方向を軸に設計していたことがわかります。
円墳部分の直径は約二八mで、埋葬施設のあった墳丘の上部はすでに削りとられていたことがわかりましたが、王様と共に副葬されていたであろう鉄剣や首飾りの玉類などは発見され、これらはふるさと文化伝承館で展示されています。
「古墳を大事にしましょう。いろんな人が来るのを楽しみにしています。」
古墳公園に訪れると必ず目に入るのが児童の手描きによるかわいい説明板です。かつて地元の小学生たちが多くの方に知っていただくよう取り組みだったので、この他手描きの案内板も近所に設置されています。説明だけでなく、眺望の素敵さや、見出しにあるような児童の願いなども記されています。
今も多くの小学校が授業で訪れていますから、この先輩たちの想いも受け止めてくれていることでしょう。
また、市内の文化資源を紹介するサイト「博アーカイブ」でも、動画やパンフレットなどで児童自ら発信しています。
人混みを避け、子どもたちの手描き案内板に誘われて古墳を巡りながら、古墳や子ども達のメッセージ、それに千五百年以上前に王様も眺めたであろう眺望を楽しむのも良いのではないでしょうか。

写真・文 文化財課